

は し が き

東アジアでは現在、安全保障上のリスクが高まっている。こうした中、的確な論理と情報に基づいた、冷静かつ活発な議論を進め、激変する国際情勢の文脈と現実を客観的かつ包括的に理解することが求められている。本書は、そうした議論の題材を、内外の一般読者や専門家に対して提供することを目的として、防衛研究所の研究者が東アジアの安全保障に関する重要な事象について簡潔かつ実証的に分析したものである。

本書は、東アジアの国・地域別に2014年1月から12月までの1年間を中心に生じた安全保障に関わる重要な事象について分析している。また東アジアおよびグローバルな安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題や具体的で興味深い事象についてもトピック章、あるいは章の中に解説コラムを設けて分析している。

本書の構成は、「要約」「序章」「各国・地域章」「トピック章」からなる。「要約」では、各章の主要な論点を紹介する。「序章」では、各国・地域章で分析されるさまざまな事象の背景を理解する一助となるべく、東アジアにおける安全保障環境において顕在化しつつある重要なトレンドについて概観する。第1章から第7章までの各章では、国・地域別に章を立てて記述する。日本の安全保障政策の新たな展開、北朝鮮の経済および核開発問題、韓国の外交・安全保障政策の動向、中国の国内情勢および対外政策、東南アジアと南シナ海情勢、新政権下のインドの外交・国防政策、ロシアの安全保障政策とウクライナ情勢、試される米国の「アジア太平洋へのリバランス」などについて、専門的な視点から分析を加えている。さらに、トピック章として、第8章では、化学・生物（バイオ）・放射性物質・核（CBRN）に関わる安全保障問題を取り扱っている。このトピックは、近年、国際社会においてグローバルな安全保障上の課題として注目されているものである。

本書の刊行が、日本や地域の国々が直面する安全保障上の課題に関する議論を内外において深め、さらに相互理解および相互交流を一層促進

する契機となれば幸甚である。また、本書が内外の大学や大学院において教科書・参考書としても活用され、国際環境が激変する中、安全保障上の具体的な課題について、若い世代の知的関心を喚起し得る題材を提供できれば望外の喜びである。

本書の執筆は、片原栄一・庄司智孝（序章）、高橋杉雄（第1章）、阿久津博康・室岡鉄夫・江口由貴子（第2章）、山口信治・杉浦康之・門間理良・和田靖（第3章）、松浦吉秀・富川英生（第4章）、伊豆山真理（第5章）、坂口賀朗・秋本茂樹・山添博史（第6章）、菊地茂雄・新垣拓（第7章）、一政祐行・須江秀司・田中極子（第8章）が担当した。また編集作業は、有江浩一、庄司智孝、田中極子、鶴岡路人、富川英生、中澤剛、西野正巳、原田有が担当した。

なお、本書は、防衛研究所の研究者が内外の公刊資料に依拠して独自の立場から分析・記述したものであり、政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。また、本書に登場する人物の役職・肩書は、原則として記述する事象が生起した当時のものである。

最後に、本書の作成にご尽力いただいた執筆者各位、ならびに本書の企画・編集・運営に真摯に取り組まれた関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成 27 年（2015 年）3 月
防衛研究所 地域研究部長
『東アジア戦略概観 2015』編集長
片原栄一